

整形外科とメンタルヘルス

四肢・体幹部を含めたほぼ全身を診察する整形外科では、当該部位に関連して発生するメンタルヘルス疾患の患者も診察する機会が多いが、精神的症状を合併する整形外科疾患の診察が得意な整形外科医はまれである。メンタルヘルスが身体疾患の症状の訴えに影響することは明らかとはいえ、メンタルヘルスについての知見を得る機会も少なく、整形外科医にとって興味の中心となることはなかった。近年患者の症状に加えて疾患の治癒経過や治療成績にメンタルヘルスへの介入が効果的であることが報告され、整形外科医の中でもこれらの情報に興味をもつ先生方が増えている。

このような背景の中、本誌では、約35年ぶりに整形外科とメンタルヘルスについての特集を組むこととなった。私を与えられたこのテーマに対して、多くの整形外科、リハビリテーションに関わる先生方の知識を深めることができる構成の特集としたいと考えた。約35年前の当時と比べて現在の整形外科の診療は専門化、細分化されており、専門外の最新の治療法に精通するのは困難である。そこで専門外の先生にもメンタルヘルスの知識が得られるよう、当該領域に知見をもちながら日常の診療や研究活動を行っておられる先生方に幅広く執筆をお願いした。各論として、腰痛、膝関節痛、リハビリテーションとメンタルヘルスとの関連について執筆いただき、整形外科医が行う痛みリエゾン外来や精神科単科病院、心療内科での診療についても執筆いただいた。さらに脳機能解析や慢性疼痛とメンタルヘルスについて基礎研究からの情報を執筆いただいた。最終的に各論8つ、延べ50ページの読み応えのあるボリュームの特集となった。いずれも最新の知見を多く含み、約35年ぶりのupdateとしてメンタルヘルスと整形外科の知見を深めるのに適した特集になっている。改めて執筆いただいた先生方には感謝を申し上げたい。

執筆をお願いした多くの先生方が「全人的に」診察をすることの重要性を強調している。本特集では臓器特異的な専門的診療とは異なる横断的な診療に関する情報が多く含まれている。読者の先生にとっては違和感を覚えることもあるかもしれないが、通読いただくことで整形外科医がメンタルヘルスに関わるために全人的な診療を行う意義を理解いただけると信じている。本特集が整形外科医にとってのメンタルヘルスへの知見を深めるきっかけとなり、明日からの診療に役立つことを期待したい。

(米田英正)